

第4回介護・医療連携推進会議 議事録

日時：平成28年3月16日（水）10：00～11：30

場所：ザタワーズイースト 3F I-link ルーム 1

1.開会

(1) 市川市福祉公社常務理事より挨拶

開会にあたり定期巡回随時対応型訪問介護看護事業の現状を説明

(2) 委員等紹介

[委員]

地域住民代表者（藤城委員）、当該事業に知見を有する関係者（村尾委員）、市川市医師会訪問看護ステーション（四ツ屋委員）ご家族代表（宮〇委員）

※欠席：市川市福祉部福祉政策課（山田委員）

[オブザーバー]

市川市福祉部福祉政策課、高齢者サポートセンター市川東部、高齢者サポートセンター真間、高齢者サポートセンター八幡訪問介護事業所、訪問介護事業所

[事務局]

常務理事（下川）、事務局長（高久）、訪問介護課課長（長尾）、事業管理者（市川）、計画作成責任者（阿部、菅野、澤村）、オペレーター（中村）

2.サービス提供状況報告・お客様の状況

事務局（菅野・阿部）よりサービス提供実績や相談受付状況及び移行事例の結果報告をした。

3.事例検討について

事務局（市川）より、課題報告等について報告をした。

4.サービス提供状況報告等について感想及び意見

<四ツ屋委員>

移行事例の利用者様は、訪問看護で関わっていた方だと思うのですが、このサービスをやめた時は、服薬管理が出来たり出来なかったりと不安定だったが、今は安定している。もともと精神的に不安定な方で、家族間のトラブルがあると、不安定になる方。時間がたつと安定する。移行時は不安定だったが、比較的スムーズに移行できたと私は思っている。

<藤城議長>

10日くらい前に、新聞の記事で見たが介護者と利用者の「介護殺人」で、女性が70%、男性が30%で、もともとその割合で介護を担っているのですが、それだけ大変な仕事と感じている。公社が行っている、このサービスはまだ少ない。常務がおっしゃっていたが、利用者数が倍になったとはいえ、まだ事業所が少ない状況。ニーズあっても担い手不足で、ケアマネージャー泣かせだと思う。行政の方も、進めていても、事業所が少ない。夜でも受けてくれる事業者が増えるといい。

<村尾委員>

事業所間の連携の件で、ケアマネージャーも元看護師だったり、介護福祉士だったり、施設系で訪問介護がわからない人など、様々。同じ説明をしても伝わらない場合があるので、そのケアマネージャーに合った説明をしてあげてほしいと思う。

<四ツ屋委員>

サービスの周知の件だが、訪問看護のこともいまだに「来てくれる看護師さんがいるの？」と言う感じで、まだまだ周知されていない状態。今後は退院時のカンファレンスの時に、ソーシャルワーカーが是非このサービスを提案してほしい。去年一緒に担当した末期がんの方の仕事は、ケアマネージャーが公社だったのでスムーズに導入できたと思う。ターミナルはこのサービスの力を発揮できると思う。

<福祉政策課>

- ・サービスの周知の件は、事例を交えて説明があると馴染みやすいと思う。事業所間の連携はいろいろあると思うが、オペレーターの判断もあると思うが、ケアマネージャーとの連携を密にした方がいい。
- ・研修や説明会などで頻繁に「在宅の方は、住み慣れた地域で」とよく謳われるが、国の施策として重要と思う。事業者が増えない、利用者が増えないは、周知が足りないせいだと思う。

<高齢者サポートセンター市川東部>

- ・退院の際、ターミナルケアの方や、癌末期、自宅で看取りたいなどの相談が多く寄せられる。このサービスのアナウンスの必要性を感じている。
- Q、困難事例で課題報告であった利用者が、入所に至ったのはなぜ？本人の気持ちは確認はできたのか？

<菅野>

A、発語が無く、YESかNOしか言えないため、気持ちを確認する手段がなく、ご本人よりは長男の意向で入所となった。

<高齢者サポートセンター市川東部>

- ・ありがとうございました。

<高齢者サポートセンター市川東部>

- ・周知の件で、相談者に情報提供していきたい。自分が知らない事で、相談者の不利益になってはいけないと思った。

<高齢者サポートセンター八幡>

- ・このサービスが必要な相談者は多いと感じる。新規相談があった方で、転倒・水分補給・見守りが必要な相談者だった。外出が嫌いなのに小規模多機能型を勧め、不適切だったと反省している。今後はこのサービスの提案をしていきたい。

<高齢者サポートセンター真間>

- ・利用者やケアマネージャーの相談で、このサービスの知識が無くて、今まで提案してない。

ケアマネジャー研修で平成 25 年に聞いただけ。制度の説明会を地域住民にしていく予定なので、協力を仰ぎたいと思っている。よろしくお願いします。

<訪問介護事業所>

・このサービスを行っている。平成 25 年 3 月から開始となり、丸 3 年経過するが、紆余曲折し、現在に至る。職員を増員し、人事異動、管理者の交代で、仕切り直してスタートしている。ケアマネジャーや地域住民への周知活動がまだまだと感じている。

出張説明会等に参加し、利用したことのないケアマネジャーが多くいるので、周知活動をこれからも行っていく。

・ケアマネジャーからの依頼は、「このサービスだと、どの位訪問できるのか?」「限度額オーバーだから」と聞かれる事がある。このサービスの良い所を伝え、このサービスが必要な方に周知していきたい。

<ご家族代表 宮○委員>

・市民として一言。介護は大変と実感している。人を増やしたいのか、増やしたくないのか、自分はよくわからない。担い手が不足しているし、給料のこともあるから、心配している。とてもいい仕事だと思っている。

上記の通り、委員の方より頂きました、貴重なご意見をもとに今後とも取り組んでまいります。

長時間にわたり、ありがとうございました。

以上

文責：市川市福祉公社
訪問介護課 巡回係 阿部